

津山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	コミュニケーション学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0105		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	総合理工学科(先進科学系)		対象学年	4			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	なし						
担当教員	神谷 健						
到達目標							
学習目的：社会学的な思考の方法をまなぶことを通じて教養を深め、視野をひろげること。 到達目標：人文・社会科学的な視点から地域社会の抱える諸問題について多面的に理解し、地域社会の一員としてその解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。							
ルーブリック							
	優	良	可	不可			
評価項目1	十分に授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	10時間をこえて欠席すること			
評価項目2	指示に十分に合ったレポートを提出すること	指示にある程度合ったレポートを提出すること	指示に最低限したがったレポートを提出すること	指示に従ったレポートを提出しないこと			
評価項目3	なし	なし	なし	なし			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：人文・社会 基礎となる学問分野：社会学・哲学・言語学 学習教育目標との関連：本科目は総合理工学科学習教育目標「⑤グローバルな視点と社会性の養成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B)地球的視野に立った人間性の育成」「B-2:地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し、説明できること」である。 授業の概要：この授業においては、コミュニケーションに関わる諸問題をとりあげ、その多角的な把握をめざす。						
授業の進め方・方法	授業の方法：人数等に応じて、講義・演習の形式を柔軟に用いる。 成績評価方法：原則として2回の試験または口頭報告で評価する（50%×2）						
注意点	履修上の注意：本講義では、授業時間外における学生自身による準備が必要となることに留意されたい。本科目を選択した者は、学年の課程修了のために履修（欠課時間数が所定授業時間数の3分の1以下）が必須である。また、本科目は「授業時間外の学修を必要とする科目」である。当該授業時間と授業時間外の学修を合わせて、1単位あたり45時間の学修が必要である。授業時間外の学修については、担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：カリキュラムにおいて設定されている時間数に比するなら、学習内容は膨大である。授業において、すべてを網羅することは不可能なので、図書館の利用などによる主体的学習が望まれる。事前に行う準備学習として、その時点までの講義内容と疑問点の整理をしておくこと。 基礎科目：世界史（1年）倫理（1）日本史（2）政治経済（2） 関連科目：社会科学概論（専2） 受講上のアドバイス：遅刻に対するペナルティは特にもうけないが、受講者の良識を期待する。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
履修選択							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	授業の概要についての理解			
		2週	講義／演習	コミュニケーションに関わる諸問題についての基礎的な理解を得ること			
		3週	講義／演習	コミュニケーションに関わる諸問題についての基礎的な理解を得ること			
		4週	講義／演習	コミュニケーションに関わる諸問題についての基礎的な理解を得ること			
		5週	講義／演習	コミュニケーションに関わる諸問題についての理解を深めること			
		6週	講義／演習	コミュニケーションに関わる諸問題についての理解を深めること			
		7週	講義／演習	コミュニケーションに関わる諸問題についての理解を深めること			
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	講義／演習	コミュニケーションに関わる諸問題についてのさらに発展的な理解を得ること			
		10週	講義／演習	コミュニケーションに関わる諸問題についてのさらに発展的な理解を得ること			
		11週	講義／演習	コミュニケーションに関わる諸問題についてのさらに発展的な理解を得ること			
		12週	講義／演習	以上の内容の応用について学ぶこと			
		13週	講義／演習	以上の内容の応用について学ぶこと			
		14週	講義／演習	以上の内容の応用について学ぶこと			
		15週	後期末試験				
		16週	講義／演習	試験内容等についての確認			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0